

伊勢市 農業委員会だより

第42号

令和 8年9月1日発行
発行 伊勢市農業委員会
編集 農業委員会編集委員
電話 21-5653



大藪遺跡の発掘調査の風景（R8.6月撮影）

【地域の取り組み ～ 磯町 ～ 】

磯町の北側エリアでは、担い手への農地の集積が進んでおり、今後、集約化も検討されています。また、南側エリアでは、農地中間管理機構関連農地整備事業(国補助事業)を活用し、土地改良事業を進めています。土地改良事業完了後は、区画自体も大区画化が図られる予定となっています。大区画化が図られると、農作業がしやすくなり、生産コストや手間を減らすことができるメリットがあります。

エリア内では、本格的な農地整備の実施に先立ち、整備によって壊されてしまう遺跡(埋蔵文化財)の発掘調査が三重県埋蔵文化財センターにより行われていました。

第26回定期総会の内容

6月15日、御園公民館において、第26回農業委員会定期総会を開催しました。

総会では、令和7年度の事業報告と令和8年度の事業計画が審議・承認され、農業委員会に期待される役割・機能を十分に果たすべく、組織の総力を挙げ、全力で取り組んでいくことを方針として確認しました。



総会の様子

【令和7年度の主な事業活動】

○農地法関係業務

適用法令	件数	面積 (㎡)
農地法第3条許可	75	90,476.940
農地法第4条許可	19	4,503.720
農地法第5条許可	130	88,812.895
賃(使用)貸借解約	93	200,816.800
非農地証明	20	9,315.000
合 計	337	393,925.355

○農業委員会の主な会議等開催状況

月例総会 12回・定期総会 1回
役職委員会 2回
推進委員会 4回
農業委員会委員等研修会
各市町農業委員会会長・事務局長会議
全国農業委員会会長大会
全国農業委員会会長代表者集会

農地利用最適化推進委員
の地区と定数

地区名	定数(名)
本庁	1
神社・大湊	1
浜郷	2
宮本	2
豊浜	5
北浜	5
城田	3
四郷	3
沼木	2
二見	2
小俣	4
御園	2
計	32

農地利用最適化推進委員 32名
(農業委員に担当地区はないが、農地利用最適化推進委員は担当地区ごとに募集)

農業委員は20名、農地利用最適化推進委員は32名の公募があり、選定委員会において選定後、農業委員は、市長に報告され市議会の同意を得てから、委員に任命される予定です。農地利用最適化推進委員は、農業委員会の臨時総会后、農業委員会から委嘱する予定です。

◆募集人数

農業委員 19名

◆募集期間

令和8年6月15日～7月14日

任期満了に伴う、農業委員及び農地利用最適化推進委員の公募を行っていましたが、以下の枠内の結果となりました。

公募結果

農業委員	農地利用最適化推進委員
推薦を受けた者 14名	推薦を受けた者 26名
応募をした者 6名	応募をした者 6名

農業委員と農地利用最適化推進委員の公募結果

農地の賃借料情報

平成21年の農地法改正により標準小作料制度が廃止されましたので、標準小作料に代わる賃借料情報を提供します。

この賃借料情報は、令和7年1月から12月の間に、農業経営基盤強化促進法第18条により権利設定された農地の賃借料を集計したものです。農地の賃借料を決定する際の判断材料としてご活用ください。

◎ 田（水稻）の賃借料【年額】

最多価格帯 【10aあたり】	データ数
29,500 円 (17,000)	177 筆 (299)

参考【全データ】

平均額 【10aあたり】	最高額 【10aあたり】	最低額 【10aあたり】	データ数
23,300 円 (14,800)	59,000 円 (25,500)	10,000 円 (8,000)	316 筆 (416)

- ※ ・下段（ ）は、昨年の数字です。
- ・データ数は、集計に用いた筆数です。
 - ・物納支給（水稻）としている場合は、60kg あたり 10,000 円に換算しています。
 - ・金額は、算出結果の 100 円未満を切り捨てし、100 円単位としています。

◎ 畑の賃借料

データ数が少ないため情報提供しておりません。

農地利用状況調査
のお知らせ

農地パトロールの一環として、今年も9月～10月頃にかけて、農地利用状況調査を行います。これまで遊休農地とみなされた農地所有者等の方には、利用意向調査を行っていただきます。その後意向の変更があつた方は、お手数ですが、農業委員会事務局までお知らせください。

担い手不足や高齢化、農産物価格の低迷などにより、遊休農地は全国的に増加傾向にあります。草の管理も含め、農地の適正管理や有効活用をお願いいたします。

皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

稲わらの処理
のお願い

水稻を収穫した後の稲わらを放置すると水に流され、ポンプ場や排水路に詰まったり、海に流れ込み、漁場を荒らすなどの被害を及ぼす恐れがあります。

鋤き込みをするなどして、周囲に被害を及ぼさないようご配慮をお願いいたします。

資源である
土を大切に

農作業後にトラクターに付着した土が、大きな塊として道路に落ちていることがあります。この土を踏むとスリップするなどの危険があり、また土ぼこりの原因となります。

皆様の安全と環境のため、道路に出る前に土を落とすなど、ご配慮をいただきますようお願いいたします。



御祝い

令和8年春の叙勲

【旭日単光章】

早川 繁一 様

元伊勢市農業委員長

ご受章を

お祝い申し上げます。

農林水産課からお知らせ

獣害対策5箇条について

獣害に強い集落づくりには、農家・住民・捕獲者・行政等が協力し、地域ぐるみでの取り組みを行うことが重要です。その具体的な取組内容として「獣害対策5箇条」を紹介いたしますので、農家の皆様におかれましては、ご理解ご協力をお願いいたします。

「問い合わせ」
農林水産課獣害対策係
【☎21-5645】

獣害対策5箇条




その1 エサ場をなくす

野生動物を引き寄せるエサ場をなくしましょう。また、人が被害と思われない収穫残渣などを、無意識の餌付けを防ぎましょう。

✖



生ゴミや収穫残渣の放置は危険！
稲のひこばえでも野生動物には
ごちそうです。

○



生ゴミは適切に処理し、
収穫残渣は放置しない！
放置している不要な果樹は伐採する。

その2 隠れ場をなくす

定期的な農地の草刈りや、藪の刈り払いなど、野生動物の隠れ場所をなくしましょう。

✖



手入れのされていない農地や空き家は
野生動物の絶好の隠れ場所に！

○



定期的な草刈りなどで適切に管理し、
見通しを良くして隠れ場所をなくす。

その3 囲える場所は囲う

農地や集落など、守りたい場所は柵などでしっかり囲いましょう。

✖



柵がないと、簡単に入って
食べられてしまう！

○



正しく設置した柵で侵入を防ぐ！
定期的な点検も忘れずに！

その4 追い払い（サル対策）

サルを集落に近づけないことが大切です。地域ぐるみで協力して効果的に追い払いましょう。

✖



放っておくと、集落に慣れて
被害がエスカレート！

○



集団で遠くまで追い払い、
集落や人は怖いと学習させる！

その5 適切に捕獲する

1～4に取り組んでも被害を及ぼす加害個体は、関係機関と連携して捕獲を検討しましょう。

✖



猟友会まかせの捕獲活動

○



地域ぐるみの捕獲活動
（関係機関と連携）

🐾 獣害に強い集落づくりのため、地域ぐるみで対策に取り組みましょう。🐾

あなたも
認定農業者に
なりませんか？

認定農業者制度は、農業経営基盤強化促進法に基づき創設された制度で、農業者から提出された農業経営改善計画（現状と5年後の計画）を市が基本構想（※）に基づき認定するものです。

認定までの手続きとしては、市に提出された農業経営改善計画について、関係機関による計画の審査等を経て、市が認定することで、認定農業者となります。

認定農業者になると、意欲ある農業経営者として地域からの信頼が得られるほか、認定農業者でなければ受けられない支援制度を受けることができます。

※「基本構想」とは市が地域の実情に即して育成すべき農業経営の規模や所得の目標など、農業の担い手像を明確化したものです。

「問い合わせ」

農林水産課農業振興係

【☎21-5645】

『地域計画』を策定して、地域のみんなが農業の将来について考えてみませんか？

◆地域計画とは

10年後の地域農業を守っていくため、地域の皆さんの話し合いにより、地域の現状を把握し、将来の地域農業をどうしていきたいかを決める「地域のための計画」です。また、この話し合いの結果を地図に落としこんだものが「目標地図」です。

みんなが地域計画と目標地図を作成し、地域の農地・農業を守っていきましょう。

令和8年3月末現在、市内23地区で地域計画の策定が完了しています。地域計画の内容の説明や、地域での話し合いのお手伝い等ご相談等がありましたら、農林水産課または農業委員会事務局まで、お気軽にご相談ください。

（農林水産課）

☎21-5645

又は

（農業委員会事務局）

☎21-5653



伊勢志摩地域農業改良普及センター シリーズ42号

【ニシノカオリで地域に収益を】
丁寧な管理という投資

三重県の小麦は、令和3年産から令和5年産にかけて三〇〇^キ／10^a以上を安定確保し、北海道・福岡・佐賀に次ぐ全国有数の産地規模（面積4位・生産量5位）として知られています。生産量が多いことは市場への影響力が大きいことを意味し、安定供給は製粉メーカーとの信頼の基礎です。

その中でも、伊勢市で栽培される「ニシノカオリ」は、たんぱく質含有量が高い硬質小麦として実需者に求められる重要な役割を担っています。国の畑作物直接支払交付金（ゲタ対策）では、パン・中華麺用品種として他品種の約一・五倍の単価が設定されています。具体的には県内で広く栽培される軟質小麦「あやひかり」と比べると、同じ収量でも一俵あたり約二千三百円高くなります。この価格差は実肥散布など丁寧な管理に対する対価でもあります。さらに、たんぱく質含有量が高いほど製粉業者からの評価も高まり、産地としての信頼につながります。



最適な防除時期の検討



反省点を踏まえた研修会

ニシノカオリは収量と品質の両立によって地域に大きな収益をもたらす品種であり、丁寧な管理が収益に直結することをこの数字は示しています。

令和6年産は小麦の収量が県内全体で大きく低下した年でした。伊勢市も例外ではなく、平均単収約二六六^キ／10^aと大幅な減収となりました。主な要因は登熟不良です。出穂後の湿害で根が弱り、葉が早く枯れて養分不足となったところに赤かび病や倒伏が重なりました。この結果、茎数は確保できても実が十分に成熟しませんでした。ちなみに、登熟歩合が一〇%低下すると収量は約三〇^キ／10^a下がるとされており、その影響の深刻さがわかります。

減収の教訓を対策へ

この教訓を踏まえ、令和7年産では「登熟期間の健康維持Ⅱ 子実の充実」を全体方針として、播種当初から計画的に対策が講じられました。赤かび病防除は開花始期から7～10日間隔で2回以上実施され、実施率が高まりました。また、実肥の施用で出穂後に窒素を補い、たんぱく質の向上と登熟促進の両立が図られるとともに、額縁明渠・弾丸暗渠による排水整備と適正施肥で湿害・倒伏を防ぎました。こうした取組は赤かび病による収の変質を抑え、DON（デオキシニバレノール）値の低減にも寄与しています。令和6年産の苦い経験を糧としたこうした

丁寧な取組が実を結び、令和7年産以降、収量は着実に向上しています。

「多収でも低収でも作業の多くは変わらない。防除や追肥はコストではなく投資だ」という意識のもと、伊勢市の生産者による取組は今後も続きます。

普及センターも、防除適期や実肥のタイミングといった情報提供、排水対策や栽培技術の指導、研修会の開催を通じて、こうした取組を引き続き支援していきます。



収穫を迎える小麦

伊勢志摩地域
農業改良普及センター
☎ 27-5173

第3回「スマホ・タブレットでパチリ伊勢の農フォトコンテスト」入賞作品(2025年度分)

①



②



最優秀賞／小学生の部

①『四角の中に広がる田んぼ』

中島小学校 1年

たなか ようたろう
田中 陽太郎 さん

最優秀賞／中学生の部

②『コルクみたいな稲わらロール(稲WCS)』

小俣中学校 1年

こばやし よしはる
小林 昌永 さん

③



④



優秀賞/サンファームおばた賞

③『初めてカマで！初めての稲刈り！』

厚生小学校 3年

なかにし ひなた
中西 ひなた さん

④『夕日にかがやく稲穂がいっぱい！』

小俣小学校 2年

うめざき あんな
梅前 杏菜 さん

⑤



⑥



優秀賞/郷の恵風輪賞

⑤『ひこばえと秋の空』

小俣中学校 1年

てらもと ゆきじ
寺本 幸路 さん

⑥『芋の背比べ』

中島小学校 3年

くぼ ようすけ
久保 陽右 さん

⑦



⑧



優秀賞/民話の駅蘇民賞

⑦『命をいただくということは・・・』

明野小学校 6年

てらもと あんじゅ
寺本 杏樹 さん

⑧『柿の収穫』

厚生小学校 2年

やまむら ももは
山村 桃葉 さん

(農林水産課提供) 市ホームページに掲載しています。
詳細は下記二次元コードからご覧ください。



編集後記

伊勢市の南部に位置する円座町は、宮川沿いにありながら、昔は、水利が悪く、荒れ地だった為、水稻栽培が出来難く広大な水田が拓ければと、米山家九代目米山多右衛門宗持氏により、現在の米山用水を復旧・拡大し完成された偉業が、今も語り継がれています。現在は、そのおかげで、土地改良もされ、良質な水稲が収穫されています。

五十四軒あった農家は、高齢化や後継者不足の問題で、八軒の農家に減少しました。

現在は、委託が増え放棄地なく耕作されていますが、今後の営農の存続が、難しい時期には来ています。学校では、田植え・稲刈り・横輪いも植えや収穫など、農業にふれあう体験があります。

少しでも、農業に携わりたくと思う子供たちが増え、育ってくれる未来を願っていますが、先ずは今年の秋、天候に左右されずたわわに実った黄金の円座新田を思い描いています。

農地利用最適化推進委員
沼木地区 上村 明政

第42号伊勢市農業委員会だより
編集委員(第2班)

川畑 幸也 宮間 吉武 梅田 修身
大仲 徹治 奥山 直樹 辻井 一郎
丸井 弘和 澤村 泰行 宮端 章
富岡 譲 亀田 元彦 松原 孝次
櫻井 伸彦 富楽 勝 角谷 直子

再生紙を使用しています